光

Aブロック全作品と講評

初セッションは、99作品から選ばれた16作品でした。

作者さんや読み手さんの声は

http://www.columnland.net/　　にてごらんください。

A-1

キミノイイトコロ

誰にも負けない寛大な光で
君は僕らを明るく照らし出す

君がいるだけで
僕らは心まで晴れる
雨の日
君がいない日は少し悲しい気持ちになる

沈んだ心を優しくなぐさめてくれる
心地よい光をくれる君

真夜中に窓辺で二人
君の穏やか光は
二人の顔を優しく映し出す

＊　＊　＊

恒星。
衛星。
惑星。
星のない世界、あの人の顔も見えない

君がいて良かった

ボクも…
誰かを照らしてあげられているといいな

A-2

新着メールはありません

「国語の課題って何だっけ？」
そんなメールを送るのも、今では難しい。
——どうしても、送れないかな。
自問自答を繰り返すまでもなく、結論が出た。
——無理だよ、やっぱり。

二日前のこと、唯一の親友である友紀に恋人ができた。
「おめでとう！」
口ではそんなことを言ったけれど、内心が真逆だったことはたぶんバレてる。
——親友の幸せを恨むなんて、私は最低だ。

その日の夜、メールのやり取りが減った。返信に、時間が少し掛るようになった。どこかよそよそしい空気が生まれた気がした。
——そうだよね、友紀には他に相手がいる。
——私は二の次。
——私は……邪魔かな？
そう思うと、送るメールの数も自然と減った。

その翌日、つまり昨日は朝から、自分の隣は空いていた。それまでそこにいた友紀は、例の彼氏の傍にいた。それは至極当然の行為だったし、予想もしていた。私は、二人に近付けなかった。
——邪魔しちゃ悪いよね。

給食の時間は特に苦しかった。私は何故か言葉が出てこなかった。私の目の前にいる友紀はいろいろと話しかけてくれた。けれど、まるで私を元気付けようとするその行為が、返って私を惨めに仕立てた。そして、せっかく恋人がいて幸せな友紀に心配をかけている自分が、腹立たしかった。

夜、一通だけメールを送った。ちゃんと返ってきた。でも、友紀からそれ以上送ってくることはなかった。メールの内容も、急に薄っぺらに思えてきた。
——私は邪魔だね。
——嫌われちゃったかな。
そんな思いが募った。

今日の授業には、恐ろしいほど身が入った。集中している間だけは、不安や寂しさを感じなかった。大嫌いな教科も、楽しいと思えた。

今日一日、友紀とは一言しか言葉を交わさなかった。
「おはよ」
この声だけは、以前と変わらなかった。

自分の部屋に帰ると、課題をやろうと思った。期限の直前でもないのにそう思ったことは、今まで一度もなかった。理科を終わらせ、数学、英語、社会も片付けた。国語だけは課題が何だったのか思い出せなかった。二日前の一時限目、授業中に課題として問題が出されたらしい。私はその時寝ていて、後から友紀に聞いたのだ。その時は、後でまた友紀に訊けばいいやと思って、いつも通りノートには何も記さなかった。私は、何でも真面目な友紀に頼ってばかりだった。
——ああいうまめな人の方が、好かれるのかな。
——私に、何かいいところなんてあるのかな。

することがなくなった。でも時計はまだ九時、寝るには早すぎた。
——いつもはテレビやメールで時間が足りないほどだったのに。
恋愛物のドラマを見る気にはなれなかった。メールなんて送れるはずがなかったし、一通も届いてない。音楽でも聴いて気を紛らわそう、そんな結論に至った。部屋の電気を消して、スイッチを押す。

流れてくる旋律は、歌詞は、明るいものが多かった。それでも泣けてくるのは、私の目が捻くれ者だからだろうか。どの曲も私を、曲を聴いた当時へと誘う。一カ月前、五カ月前、一年前、三年前……。そこにはいつも、友紀がいた。友紀のいない自分なんて有り得なかった。だからより一層、今の自分の存在が虚しく思えた。

音を止めて、布団に潜り込んだ。もう、先のことが考えられなかった。
——私から友紀を奪ったあいつが憎い。
——私を捨てた友紀も憎い。
——友紀を恨んでいる私も、なんか憎い……。

突然、何かの音が聞こえた気がした。
布団から顔を出すと、暗闇の中に小さな光がひとつ、点滅していた。

A-3

幻想と現実

彼女は盲目であった
といっても生まれつきそうであったのではない
記憶が定かでないころに視力を失ったのである
しかし光を失ったわけではなかった

わずかに残っている色のイメージ
他人から告げられる情景
書物から得られる光景

それらが彼女の幻想を形作った

父は太陽の力強い焔の煌めきを話した
母は星の儚く健気な美しさを語った
友は木々の瑞々しい緑の輝きを教えた
小説は空の果てしない青さを謳った
紀行は街の華やかな活気を伝えた

彼女の世界は色に、光に満ちていた

ある日彼女にとある手術が持ちかけられた
成功すれば視力を回復できるというものだった
彼女は望んだ
世界を見たいと、自分の目でこの美しい世界を見たいと

そして彼女の幻想は砕け散った

眩しく乱暴な光、曖昧で頼りない点、不愉快な命の色
くすんだ低い天蓋、猥雑で不気味な街並み

世界は暗く、色褪せ、決して美しくなどなかった

A-4

虹

光があふれている。太陽の出ている昼間などは言うに及ばないだろう。日によっては、影の存在により初めて光に気づくかもしれない。はたまた、否応なしにその熱を感じ、太陽の存在を感じることもあるだろう。または、雲間から差し込む光を見て、実存としての光を感じることもあるだろう。

もちろん光は、昼間にしか存在しないものではない。つまり、100 年以上前から夜間には電球による明るい光があった。蝋燭など火の光の存在を考えれば、人工の光の歴史は一気にさかのぼることは可能であろう。

また、夜間には、人工の光に限らず、自然の光も多く存在する。夜空の星だ。なかでも、満月は一際あかるく、夜景と同じように写真を撮ろうとしても、明るすぎて真っ白な写真になってしまうこともある。

身近な光であるが時として芸術的な側面も見せる。代表格としては『虹』や『極光』が挙げられるか。身近なのは虹だろう。大きなものは雨上がり、小さなものなら晴れた日に庭でも造ることができる。

この虹であるが、国や地域によって色の分類が異なることはよく知られた事実であろう。日本では赤 橙 黄 緑 青 藍 紫の7色だがその他の数を採用する国（イギリスフランスの6色など）も多く、また日本も古来5色としていた。科学的に虹の色を7色と初めて言及したのはニュートンであり、7という数はドレミの音階からとったものとされている。このようにしなくては虹が何色かは決められなかった。実際に光の色は無限にあり、色の枠は言語や生活のあり方によって大きく左右されるものである。たとえば言語によって「何色は周波数がいくらからいくらのものをいう」といった共通認識があり、これは国によって異なる。イギリスで茶色い車で迎えに行くといわれて待っていたら、来たのは［日本人にとって］赤い車だったといった具合だ。

色については、差異が目立つ一方で、共通点もある。様々な色に特別な意味を持たせたりするのだ。そして意外とこれが同じような意味を持つ。が、それよりも好ましく感じるのは、虹の7色はどこの人も覚えにくいということだ。英語圏の人たちもわれわれと同じようにごろ合わせを作って覚えている。少し調べれば見つけられるだろう。さらに、虹を美しいと思っていることも間違いないだろう。ならば我々は虹を通して同じ感情を共有することができると言えるだろう。となれば、

虹は地球の人と人との懸け橋である。

のかもしれない。

A-5

「この世界が光り輝くものでありますように」

少女は花畑でそう言葉を紡いだ ――――

―ある盲目的な少女の話―

「え？じゃあ君は夜も嫌いなのかい？」

「ううん、夜には月も星もあるから光に満ちあふれているわ。」

「まあ、そうといえばそうだけど。」

光はとてもすばらしいわ、と微笑む少女に少年は何も言わなかった。本当にすばらしいのかな、と少し“光だけの世界”を思い浮かべてはみたものの、真っ白の世界など少年には味気なくて、少女のいっていることを理解できなかった。

「きっといろいろな色が見えてきれいなんでしょうね。」

少年には少女の声がもう届いていなかった。どうせ光は混ざってしまったら白になってしまうよ、というのも確かにあるのだが。

「無理だよ。」

諦観を伴った少年の声までは、穏やかな風の中に消えてくれなかった。

「無理に決まっているじゃないか。」

少年の目線の先には、飛行機がぎっしり詰まった空が見えた。大砲の音が花畑を揺らす。戦争が、そこまで迫っている、

その夜、少女は走っていた。ついに戦争が始まったのだ。昼のように少年が近くにいる訳でもない。彼女はただ、炎の中を走っていた。

「いや！お願いだからこっちへ来ないで！」

少女の後ろに兵士が迫ってくる。血に飢えた兵士には、彼女の命乞いは届かない。暗闇の中で殺される恐怖。少女が駄目だと思ったその時、彼女の前方に光が見えた。救助の光だわ、と彼女は嬉しそうに、光が見えた方向へ向かって走

ドオオオン！！

…走り出し、爆風の中で木っ端微塵になって消えていった。

あれからしばらくして、兵士として今までこの地を離れていた少年は少女の墓前にいた。目撃者から少女の話は聞いていた。“爆撃地点を伝える閃光弾の方向にいってしまい、クラスター爆弾にやられた”と…。最期は自分の盲目さを悔いてくれたのだろうか、と少年は無感情にそう思っていた。

今日もまた、光のせいで人が死ぬ。

A-6

誘蛾灯

蛍光灯はただ光る

蛾は本能に従って飛ぶ

蛍光灯は殺そうとはしていない

蛾は死のうとはしていない

あなたの発する光と、私の求める光

不運にも見つけられてしまった

不運にも見つけてしまった

事態は進行していく

電線に触れるそのときまで

A-7

実験

幼い時から僕には見えていた。人の両目から発せられている光が。その光はその人の心の純粋さを示している。勿論光が強いほど純粋である。

僕の周りの人を見ていると、どうやらその光は人が年を重ねるごとに段々と失われていき、勿論例外もあるが、大体の人が二十歳位で光を完全に失ってしまうようだ。

そこで、僕は実験をしてみたのだ。光が失われてしまった人はそれを再び取り戻すことができるのだろうかという実験だ。僕はこの手の実験を何度か行ってきており、今までの実験は全て成功している。つまり、被験者の純粋さを取り戻すことができてきたということだ。

今回は被験者としてある二十代女性を選んだ。その女性はいうまでもなく光を失っていた。今までの実験から得られたデータの中に、光を回復させるには純粋なものに接する機会を増やすとよいというデータがあったので、僕自身が完全に純粋な人を演じながら彼女に接することで、純粋さを取り戻させることにした。

しかし、どんなに時間をかけても、そして最終手段として彼女と恋愛関係になっても彼女が光を取り戻すことはなかった。人は恋愛関係になると、ある一人の人を想い続けることになるため、純粋になりやすいにもかかわらずだ。仕方がないので彼女と別れることにした。

僕が家に帰ると、彼女からメールがきた。そのメールには次のように書かれていた。

結局あなたの目に光を取り戻すことはできなかったわ。

A-8

閃光

目の前にあふれる光　光　光
子供たちは食い入るように見つめている
赤や青の原色　白いフラッシュ
つぎつぎと彼らの目に飛び込んでくる
小さな怪物たちに心をときめかせ
子供たちは食い入るように見つめている

怪物たちの魔力だろうか
そのうち子供たちは震え、気絶した

今では必ず赤い帽子の少年がこうしゃべる
「部屋を明るくして、離れてみてくれよな！」

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	キミノイイトコロ	0 pt	7 位	0 sp
		月光のセレナーデ。おだやかな調べで、今年のＡブロックの開幕です。 まぶしすぎない、寄り添う光としての月に、そっと感謝を捧げて、ラストにささやかな決意。未来への思いまで載せられそうな、とてもバランスのよい「表紙作品」でした。		
A02	新着メールはありません	25 pt	1 位	0 sp
		親友に恋人が。。。　ベタな状況ではありますが、葛藤のありようをていねいに組み立てることで共感しながら入り込んでゆけます。 わけて、あざやかだったのはラストです。この光をどう読みますか。メール着信の希望の光と読みますか、それともタイトルに戻って「着信なし」の絶望と読みますか。 読み手によって、作品の色が変わるワザでうならせていただきました。みごとに初回の覇者です、おめでとう!!! イチオシフレーズ：「暗闇の中に小さな光がひとつ、点滅していた」×２ 「ああいうまめな人の方が好かれるのかな」		
A03	幻想と現実	24 pt	2 位	0 sp
		希望から絶望への暗転を通じて、光なんてないほうが幸せさ、という寓意がしっかり伝わってきます。 でも、新年度はじめなのに。。。 もう一転して、花一輪の仄かな希望へとつなげてほしかったなあというのは、もちろん読み手のワガママなのですけれど。 猛追わずかに届かなかったものの堂々の2位、こちらもおめでとう!! イチオシフレーズ：「それらが彼女の幻想を作った/そして彼女の幻想は砕け散った」		
		2 pt	6 位	1 sp

A04	虹	虹に託して文化による見え方の違いを紹介した作品は他にもあったのですが、これは紹介にとどまらずに「懸け橋」というメッセージ性が加わったところが良さでした。 蘊蓄モノも主張は必要なのですよ、おのおのがた。 特別賞：東工大の鏡賞 イチオシフレーズ：「のかもしれない。」		
A05	ある盲目的な少女の話	0 pt	7 位	2 sp
		「光のせいで人が死ぬ」――ラスト１行の重みにたじろぎます。上段と下段で、少年から少女へとくるりと視点を変えたところもワザですね。 ただタイトルまわり、もっとすっきりさせたほうが良かったか。説明しすぎの感。 特別賞：一行要らなかったで賞/あたりまえで賞 イチオシフレーズ：「今日もまた、光のせいで人が死ぬ」「ある盲目的な少女」		
A06	誘蛾灯	10 pt	5 位	0 sp
		タイトルに、まず引き込まれ、そして非運の結末へと。シンプルな言葉のひとつひとつが生きています。焼き殺されるまで、そんな人生、なるほどね。 レイアウトはもっときれいに組めそうですが。 イチオシフレーズ：「蛍光灯は殺そうとはしていない」×２		
A07	実験	14 pt	4 位	1 sp
		不思議なチカラ、じつは彼女もという展開自体はお約束の範疇なのですけれど、それを長々と書かずにこれだけコンパクトにまとめたところがワザでした。 かつ、ストーリー全体を通じ、「人のために何かする」っていう気持ちは結局まやかしなのでは、と深い問いにまで誘ってくれるところも非凡。 イチオシフレーズ：「僕自身が完全に純粋な人を演じながら」「結局あなたの目に光を取り戻すことはできなかったわ」×２ 特別賞：星新一賞		
		15 pt	3 位	11 sp

A08	閃光	その昔、そんな騒動もあったなあ。短い言葉でパンパンと光景を見せて、何だろうと引き込んで、きれいにタネアカシ。 　リズム感が身上と読みました。めでたく今週のネタ元さん、おめでとう。 　３位ゲットとともに、特別賞総なめ。なつかしさにも助けられて15班のうち11班が特別賞に選んでくれました。すごいすごい。 特別賞：雰囲気賞/ポリゴン賞/ポケモン賞/よく思い出したで賞/サトシ賞/ポケモン賞/ポリゴン賞/メモリアル賞/世代で賞/懐かしいで賞/わかりにくかったで賞 イチオシフレーズ：「部屋を明るくして、離れてみてくれよな！」×３

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	ダイヤモンドダスト	13 pt	4 位	1 sp
		きれいだけど、ほ・こ・り。 　ちょっとエスプリ（皮肉）の効いた、しゃれた仕上がりで、ふふっと苦笑を誘うＢブロックの今年の表紙作品でした。なんとなんと、４位まで上がりましたね。 特別賞：掃除賞（しよう） イチオシフレーズ：「部屋中にダイヤモンドダスト」×２　「そんな太陽が憎らしい」		
B02	光よ、届け	12 pt	5 位	0 sp
		まっすぐな使命感、この世代らしい爽やかさでした。お説教にならず、自らへの決意表明のようなカタチでまとめたのが好感度大です。 　ただ、主張がやや単調に過ぎた感も。ダースベーダーじゃないけれど、光がもたらす暗黒面にも目配りは欲しいところ。		
B03	光よりも眩しくて、暗い世界	16 pt	2 位	0 sp
		前半はお約束のほのぼのストーリーなのに、暗い目で一気に暗転。何も具体的に説明されていないぶん、世界の恐さが、いっそうじわじわ滲みてきます。 　そんな落差の見せ方が、あざやかでした。２位、おめでとう!!		
		9 pt	6 位	0 sp

B04	再会	病院モノ続きになってしまいましたが、こちらは軽やかに。 　リフレインを響かせつつ、ラスト１行がほんとにきれいに決まりました。 イチオシフレーズ：「今日は、光と私の再会の日」
		14 pt　3 位　11 sp
B05	輝き	くるりと言葉を裏返してみれば、別の顔。 　ネタそのものは使い古されてますが、見せ方がうまいなあ。 　あたかもA-4と対をなすごとく、３位ゲット＆特別賞総なめ、そしてイチオシフレーズ大賞までさらいましたね、おめでとう!!! 特別賞：わかる人にしかわからないで賞/ローマ字賞/短いで賞/うまいで賞/踊るヒット賞/ネタパクリ賞/ブラック賞/トリック賞/爆笑（賞）/死ね賞/よく思いついたで賞 イチオシフレーズ：「せめてローマ字で」×９
		3 pt　7 位　1 sp
B06	明智光秀の謀反	光秀に行くとはっ、という視点のユニークさが何より光りました。ひとの行かないところに行くのは、だいじなポイントです。 　ただ、通説紹介で終わってしまわず、オレはこいつのここが好きだというようなファントークにしていただくと、よりインパクトが備わったのでは。 特別賞：努力賞
		23 pt　1 位　2 sp
B07	ひかりあつめて	うわあ、恐い！　みごとにダマされて唖然です。 　アリンコだなと思わせ、じゃあ「彼女」は太陽？　とミスリードして、じゃーん、太陽のような笑顔をぽっかり。読者の気持ちの誘い方、すばらしかったです。 　文句なしの首位ですね、おめでとう!!! 特別賞：子供の無邪気さは恐ろしい賞/子供は残酷賞 イチオシフレーズ：「おもしろいよ、おとうさんもやる？」「純粋で、けれどそれがゆえに残酷な、彼女はまさしく神様だった。」
		0 pt　8 位　0 sp

B08	スターリット	ラストはしずかに星空に歌って。スターリットは星明かり。 「はためき」。そんな少し背伸びした言葉づかいが、ここちよく、その上にしっかり人生観も乗っていて、あたかも歌詞のような、今週の読み納めでした。